老

無理もないけれども親父腹を立て
家内中ドット笑つて父が負け
信心に細うく長く生きてゐる
長命に不足を聞けば淋しさう
頬ぺたが垂れて學者のおばアさん
隱居まだモグ〳〵やつて蕎麥が好き
老ひゆけば老ひゆけば足おそく
西洋の事さと隱居取り食はず
久々の孫を立たせて背くらべ
仲裁のまあ〳〵といふ年の功

索引

い、ゐ

いか（紙鳶）……二
いぬたで（馬蓼）……三
いわし（鰯）……三五
いしどうろう（石燈籠）……四九
いなづま（稻妻）……五〇
ゐどかへ（井戸替）……九八
いんげんまめ（隱元豆）……一〇九
いも（芋）……一一〇
いざよい（十六夜）……一一八

ろ

ろびらき（爐開）……一六五
ろくぐわつしばゐや
すみ（六月芝居休）……一七四

は

はつふじ（初富士）……五
はうびき（寶引）……六
はまゆみ（破魔弓）……七
はれつき（遣羽子）……七
はるかぜ（春風）……一五
はつう（初卯）……一六
はらひあふぎ
ばこかひ（拂扇箱買）……一七
はつゆ（初湯）……一八
はつれのひ（初子の日）……一一
はつうま（初午）……四八
はるのゆき（春の雪）……五
はつかみなり（初雷）……六一
はるさめ（春雨）……六四
はるの（春野）……七一
はなのよひ（花の宵）……八〇
はるのつき（春の月）……八一
はるのよひ（春の宵）……八一
はなのあさ（花の朝）……八二
はなのえん（花の宴）……八二
はなぐもり（花曇）……八二
はなのせいさつ（花の制札）八三
はなのまく（花の幕）……八三
はな（花）……八五
はなのやま（花の山）……八七
はなみ（花見）……八八
はなのるす（花の留守）……八九
はなのあめ（花の雨）……八九
はなみだんご（花見團子）九九
ばうすもち（坊主持）……九九
はなのくれ（花の暮）……一〇〇
はなもどり（花戻り）……一〇〇
はなぬすびと（花盜人）……一〇〇
はなのとも（花の供）……一〇一
はなのあす（花の翌日）……一〇一
はなちる（花散る）……一〇一

はつがつを（初鰹）……一〇九
はざくら（葉櫻）……一二三
ばいう（梅雨）……一三九
はへ（蠅）……一四〇
はらがけ（腹掛）……一四九
はなび（煙花）……一五七
はすのみとぶ（蓮の實飛ぶ）……二〇九
はぎ（萩）……二〇九
はつさく（八朔）……二二五
はつさくとつきみ（八朔と觀月）……二二九
はうじやうゑ（放生會）……二二九
はまぐり（蛤）……二三七
はつふゆ（初冬）……二六六
はつゆき（初雪）……二七三
はだかまゐり（裸參り）……二〇九
はたり（羽織）……二七八
はんてん（半纏）……二九〇
はるのれうり（春の料理）……二四九
はるをまつ（春を待つ）……二五〇
はぜ（鯊）……二三三

に

にんどう（忍冬花）……一四八
にじうろくやまち（二十六夜待）……二一〇
にひやくとうか（二百十日）……二一八
にひやくじういちにち（二百十一日）……二一八
につたみやうじんさい（新田明神祭禮）……二七一

ほ

ほうこうにんでがはり（奉公人出代り）……七四
ほとゝぎす（杜鵑）……一一七
ぼたん（牡丹）……二一
ほたる（螢）……一六〇
ぼうふり（子子）……二二四
ほゝづき（酸漿、酸漿實）……一〇一
ぼんおどり（盆踊）……二〇五
ほうれん（豐年）……一六二
ほつけしうおゑいこう（法華宗御影供）……一七〇
ほしだいこん（干大根）……二二
ほうおんこう（報恩講）……二〇五

へ

へび（蛇）……二二
へちま（糸瓜）……二四
へびあなにいる（蛇穴に入る）……二二

と

とそ（屠蘇）……四
としをとこ（年男）……五
とりおひ（鳥追）……三
としまやしろざけ（豐島屋白酒）……六一
とあみ（投網）……八五
とうえいざんのさくら（東叡山の櫻）……九〇
ところてんうり（心太賣）……一四二
とひだけうり（樋竹賣）……一六五
どようみまひ（土用見舞）……一六八
どぜう（鰌）……一七〇
とうぐわん（冬瓜）……一九〇
とんぼ（蜻蛉）……二二二
とうかいじのもみぢ（東海寺の紅葉）……二五五
とうえいざんかいさん（東叡山開山忌）……二七五
とりのまち（酉の日）……二九三
どてのゆき（土堤の雪）……三〇一
としのいち（年の市）……三二四
としわすれ（年忘）……三三五
ところうり（野老賣）……三四一
とそぶくろぬふ（屠蘇袋縫ふ）……三四九

ち

ちやうとじ（帳綴）……四〇
ちじつ（遲日）……一〇五
ちまき（粽）……一三六
ちやうやう（重陽）……一三八
ちどり（千鳥）……二二
ぢよや（除夜）……三五〇

り

りつしゅん（立春）……二
りびやう（痢病）……一九五

を、お

おさがり（御降）……一七
おのうはいけん（御能拜見）……八〇
おちあゆ（落鮎）……二三六
おちば（落葉）……二八一
をしどり（鴛鴦）……二九一
おほかみ（狼）……三〇四
をんじやく（温石）……三一三
おほみそか（大晦日）……三四三
おほどし（大歳）……三四九
をほぬさくばり（太麻配）……三九

わ

わかもち（若餅）……八
わかくさ（若草）……五四
わらび（蕨）……六四
わうじごんげんさい（王子權現祭禮）……二〇六
わたいれ（綿入）……二八〇
わたぼうし（綿帽子）……二八二
わたつみ（綿摘）……二八四
わうじきつねび（王子狐火）……三五一

か

かどまつ（門松）……三

かすのこ（敍の子）……四
かすみ（霞）……八
かざりかき（飾り柿）……一四
かへる（蛙）……五九
かひこ（蠶）……八〇
かきつばた……一一六
かいちやう（開帳）……一〇三
かやりび（蚊遣火）……一二三
かはほり（蝙蝠）……一二三
か（蚊）……一二四
かやうり（蚊帳賣）……一二五
かや、まくらがや（蚊帳、枕蚊帳）……一二六
かしはもち（柏餅）……一二七
かつば（合羽）……一四五
かさ（笠）……一六三
かじやう（嘉祥）……一八六
かぢのは（梶の葉）……一九八
かゞし（案山子）……二三一
がん（雁）……二三二
かき（柿）……二三四
からすうり（老鴉瓜）……二三五
かぼちや（南瓜）……二三五
かややめる（蚊帳やめる）……二三七
かに（蟹）……二四〇
かんだみやうじんさい
れい（神田明神祭禮）……二四六
かけとり（掛取）……二四四
かいあんじのもみぢ（海晏寺の紅葉）……二五六
かんなづき（神無月）……二六五
かみこ（紙衣）……二七〇
かみふすま（紙衾）……二七五
かれの（枯野）……二〇五
かん（寒）……二〇七
かんねんぶつ（寒念佛）……二〇八
かんごい（寒鯉）……二一一
かんべに（寒紅）……二一一
かも（鴨）……二二三
かまはらひ（竈祓）……二二三
かざりものうり（飾り物賣）……二三七
かゞみとぎ（鏡磨）……二三八
かけごひ（掛乞）……二四七

よ

よかん（餘寒）……三八
よめのれい（嫁の禮）……三八
よしはらのさくら（吉原の櫻）……九八
よしきり（剖葦鳥）……一三
よしばらとうろう（吉原燈籠）……一九五
よたかそば（夜鷹蕎麥）……二八七

た

だい〳〵（橙）……八
だいこくまひ（大黑舞）……一四
たなおろし（店卸）……二
たこ（紙鳶）……二一
だいかぐら（太神樂）……二三
たからぶね、はつゆめ（寶船、初夢）……三〇
たきゞのう（薪能）……五八
だん（暖）……八一
たけのこ（筍）……一二六
たんご（端午）……二三四
たちうり（太刀賣）……二三八
たんごこどもあそび（端午子供遊び）……二三八
たうゑ（田植）……一四一
たこ（蛸）……一七五
たなばた（七夕）……一九八
たかどうろう（高燈籠）……二〇〇
たまだな（靈棚）……二〇四
たなぎやう（棚經）……二〇五
たうもろこし（唐黍）……二三七
たうがらし（蕃椒）……二四九
たどん（炭團）……二六九
だいこんひき（大根引）……二七五
たび（足袋）……二七七
たか（鷹）……二八六
たぬきじる（狸汁）……二八八
たいまくばり（太麻配）……二一九
だいこんまき（大根蒔）……二三六
たかなのもみぢ（高尾の紅葉）……二五五
たくあんづけ（澤庵漬）……三二
れ
れいちやう（禮帳）……四
れいのとも（禮の供）……一三
れんげ（蓮華）……一八〇
れい（冷）……二〇七
れいし（荔枝）……二三一
れんこん（蓮根）……二三三
そ
そがまつり（曾我祭）……一四九
そばがき（蕎麥搔）……二七七
つ
つる（鶴）……四六
つるのすひもの（鶴の吸物）……四六
つくし（土筆）……五三
つばめ（燕）……五九
つばな（茅花）……七七
つみくさ（摘草）……七九
つり（釣魚）……八四
つゝじ（躑躅）……一〇五
つくままつり（筑摩祭）……一二一
つき（月）……二二四
つゆ（梅雨）……一三九
つきみまへ（月見前）……二三〇

つきのふみ（月の文）……二三
つきみだんご（月見團子）二三
つきのふね（月の船）……二三
つきのかご（月の駕）……二三
つゆみ（觀月）……二二四
つきのあさがへり（月の朝歸り）……二二八
つきみすぎ（月見過）……二二九
つまみな（摘菜）……二三〇
つるしがき（白柿）……二三五
ついたち（朔日）……二三八
つくれいも（佛掌薯）……二六二
づきん（頭巾）……二八一

ね

ねんれい、としだま（年禮、年玉）……九
ねこのこひ（猫の戀）……四〇
ねはんゑ（涅槃會）……六〇
ねびえ（寢冷）……一七〇
ねぎ（葱）……二九一

な

なゝくさ（七草）……三四
なつばおり（夏羽織）……二九
なすなへうり（茄子苗賣）二四〇
なまりぶし（なまり節）……二四八
なうりよう（納涼）……一五二
なつのつき（夏の月）……一七五
なんてん（南天）……一七五
なごしのはらひ（夏越祓）……九〇
なし（梨子）……九四
なす（茄子）……九九
なるこ（鳴子）……二二三
なまこ（海鼠）……二二六

ら

らかんくやう（羅漢供養）一九一
らん（蘭）……二二
らいでん（雷電）……一七六

む

むいかとしこし（六日年越）……三
むしぼし（虫干）……一七二
むし、むしうり（虫、虫賣り）……二二
むつのはな（六の花）……三〇二
むろのうめ（室の梅）……二二七
むぎ（麥）……一六四

う

うらじろしだ（齒朶）……六
うたがるた（歌骨牌）……二五
うそかへ（鷽替）……四八
うぐひす（鶯）……五二

うめ（梅）……五五
うらゝか（麗か）……八〇
うめわかづかだいれん（梅若塚大念佛）……九五
ぶつ
うまたで……二二
うづら（鶉）……一〇六
うのはな（卯の花）……一一六
うがひ（鵜飼）……二三
うちは、うちばうり（團扇、團扇賣）……一四四
うめづけ（梅漬）……一六五
うはばみ（巨蟒）……一七〇
うなぎ（鰻）……一七一
うり（瓜）……一八一
うりばたけ（瓜畑）……一八二
うるしかき（漆掻）……二二三

の

のどか（長閑）……六三
のがけ（野掛）……七六
のうてんき（天氣）……八〇
のびる（若葱）……八三
のり（海苔）……二七三
のみ（蚤）……二二

く

ぐわんじつ（元日）……一
くひつみ（喰摘）……一四
くさもち（草餅）……七六
くわんじんすもう（勸進相撲）……一〇三
くわんぶづゑ（灌佛會）……一〇七
くちなし（山梔子）……一一七
くも（蜘蛛）……二二
くものみれ（雲の峯）……一七五
くわくらん（霍亂）……一八六
くつわむし（轡虫）……九一
くさいち（草市）……一〇〇
くろすけいなり（九郎助稲荷）……二一八
くわんげつ（觀月）……二二四
くぐわつかや（九月蚊帳）二六一
くり（栗）……二六三
くわんじんすまふ（勸進角力）……二六七
くるはのゆき（廓の雪）……三〇〇
くすりくひ（藥喰）……三一五
くれのきやく（暮の客）……三二〇
くれのふみ（暮の文）……三二〇
くばりもち（配り餅）……三二四
くれのよめ（暮の嫁）……三四〇

や

やりはご（遣羽子）……七
やぶいり（籔入）……四二
やまわらふ（山笑）……五四
やなぎ（柳）……一〇四
やまぶき（棣棠）……一〇五

やんま（蜻蛉）……二一二
やくはらひ（厄拂）……二四三

ま

まんざい（萬歳）……一七
まつのうち（松の内）……三三
まくはうり（甜瓜）……一八〇
まつよひ（待宵）……二三一
まぐろ（鮪）……二三七
まゝのもみぢ（眞間の紅葉）……二五三
まめ（豆）……二四〇
まるめろ（榅桲）……二六四
まつかざる（松飾る）……三三七
まつりまへ（祭前）……一八三

け

けづりかけ（削掛）……四〇
けむし（毛虫）……一三一
けみ（毛見）……一三二
げんちよ（玄猪）……二六五
げつはく（月迫）……三三〇

ふ

ふつかぎう（二日灸）……五〇
ふゆほうこうにんかへる（冬奉公人歸る）……五三
ふきのとう（蕗の薹）……五四
ふぢ（藤）……二二八
ふうりん（風鈴）……一三〇
ふなゆさん（船遊山）……一五三
ふるまひみづ（振舞水）……七二
ふつか（二日）……二一九
ぶどう（葡萄）……二三一
ふゆた（冬田）……二六九
ふゆのふね（冬の船）……二七六
ふじまうで（富士詣）……一六六
ふろふきだいこん（風呂吹大根）……二七七
ふゆこだち（冬木立）……二八九
ふゆごもり（冬籠）……二九〇
ふいごまつり（鞴祭）……二九四
ふゆほうこうにん（冬奉公人）……九四
ふぐ（河豚）……二〇九
ふゆのつき（冬の月）……三一五

こ

ごふくのゆ（御福の湯）……三一
こうぼうだいしさんけい（弘法大師參詣）……四七
このしろ（鰶）……五二
ことはじめ（事始）……五八
ごてんやまのさくら（御殿山の櫻）……九二
ころもがへ（更衣）……一〇七
こもかり（菰苅）……一三九
こまごめふじ（駒込富士）一六七
ごなんのもち（御難の餅）二四〇
こたつ（炬燵）……二六六
こがらし（木枯）……二七九
ごくげつ（極月）……三二四
ことなさめ（事納）……三一九
ごぼう（牛蒡）……三三五
ことはり（斷り）……三四八

え、ゑ

ゑほう（惠方）……一六
ゑびすかう（惠比壽講）……四六
えんままゐり（閻魔參）……二〇七
りゑびすかう（夷講）……二七四
えいじみやまいり（嬰兒宮詣り）……九七
ゑほうだなつる（惠方棚釣る）……三四一

て

てまり（手鞠）……五
てらのれい（寺の禮）……三八
てふ（蝶）……六〇
でんがく（田樂）……六一
てうしゆき（銚子行）……二四四

あ

あづきかゆ（小豆粥）……四一
あすかやまのさくら（飛鳥山の櫻）……九一
あり（蟻）……一三〇
あやめふき（菖蒲葺）……三六
あまがへる（雨蛙）……一四〇
あぢ（鯵）……一四三
あふぎがみうり（扇地紙賣り）……一四五
あをうめ（青梅）……一五八
あつついこと（暑い事）……一七七
あまごひ（雨乞）……一八二
あきかぜ（秋風）……一九一
あさがほ（牽牛花）……一九二
あさひによらい（朝日如來）……二〇七
あがぎれ（蹴）……二七〇
あさづけ（淺漬）……二七六

さ

ざうに（雜煮）……三
さるひき（猿曳）……三七
さいじつ（祭日）……四一
さいぎやうき（西行忌）……六一
さくらだひ（櫻鯛）……七八
さんしよう（山椒）……八二
さくらさう（櫻草）……一〇二
ざくろのはな（柘榴の花）一四三
さんわごんげんさいれい（山王權現祭禮）……一八三
さうしうおほやまさんけい（相州大山參詣）……一八八

さうめん（素麺）……九四
ざしきろう（座敷牢）……二四三
さつまいも（薩摩芋）……二六八
さんしばゐかほみせ（三芝居顔見世）……二九二
さむいこと（寒い事）……三〇八
さいざういち（才藏市）……三二九

き

きがん（歸雁）……五八
きじ（雉子）……六四
きんぎょうり（金魚賣）……二二七
ぎやうずゐ（行水）……二二九
きうり（胡瓜）……二五〇
きす（鱚）……九〇
きりぎりす（蟋蟀）……一〇八
きぬた（碪）……二三二
きのこ（菌）……二三三
きんべうぶ（金屏風）……二四五
ぎんなん（銀杏）……二七二
きつね（狐）……二九六
きぬくばり（衣配り）……三三四

ゆ

ゆきげ（雪解）……五四
ゆかた（浴衣）……二二九
ゆきのした（虎耳草）……二三二
ゆふすゞ（夕すゞ）……二七五
ゆふだち（夕立）……二七六
ゆふがほ（夕貌）……一八〇
ゆみそ（柚味噌）……二四八
ゆきげ（雪氣）……二九四
ゆき（雪）……二九九
ゆきのあさ（雪の朝）……三〇一
ゆきかき（雪掻）……三〇二
ゆきうち（雪打）……三〇二
ゆきこかし（雪轉）……三〇二
ゆきだるま（雪達磨）……三〇三
ゆきみ（看雪）……三〇三
ゆきのかご（雪籠）……三〇四

め

めぐろのもみぢ（目黑の紅葉）……二五六
めぐろふどうさい（目黑不動祭禮）……二五八
めりやす（莫大小）……二六九
めかりのしんじ（和布刈の神事）……二四三

み

みのいち（簑市）……八一
みづうり（水賣）……二六一
みかん（蜜柑）……二六二
みづとり（水鳥）……二九一

し

しんねん（新年）……二
しだ（齒朶）……六
しきせ（四季施）……四一
しらうを（白魚）……五七
じやうみ、ひなあそび（上巳、雛遊び）……六六
しほひがり（汐干狩）……七二
しんちゃ（新茶）……一二〇
しやうぶうり（菖蒲賣）……一三六
しちやう（紙帳賣）……一四三
しでうがばらなふりやう（四條磧納涼）……一五八
しまんろくせんにち（四萬六千日）……二〇〇
しのぶ（忍草）……二二四
しろむくぬふ（白無垢縫ふ）……二二五
しちぐわつみそか（七月晦日）……二二五
しんめいさい（神明祭）……二三八
じうさんや（十三夜）……二四〇
しか（鹿）……二四九
しやうとうじのもみぢ（正燈寺の紅葉）……二五六
しんしゅ（新酒）……二六二
しんそば（新蕎麥）……二六三
じうやほうゑ（十夜法會）……二六八
しぐれ（時雨）……二七〇
しらみ（虱）……二六九
しもよけ（霜除）……二九〇
じうにげつ（十二月）……三二三
じねんじよ（自然薯）……三二四
しばす（師走）……三二四
しもどけ（霜解）……二九〇
じよや（除夜）……三五〇

ひ

ひめはじめ（姫始）……二八
ひがん、ろくあみだ（彼岸、六阿彌陀）……五六
ひないち（雛市）……六四
ひなしまふ……七三
ひらめ（比目魚）……一二〇
ひふぐ（干河豚）……一二八
ひきかへる（蟾蜍）……一三二
びは（枇杷）……一四三
ひがさ（日傘）……一五〇
ひろね（晝寢、轉寢）……一五八
ひむろごしうぎ（氷室御祝儀）……一六六
ひるがほ……一七九
ひばち（火鉢）……二六五
ひえまき（稗蒔）……一三二
ひがん（秋の彼岸）……二三〇

も

もち（餅）……一六

もゝのはな（桃の花）……一五
もゝ（桃）……一九五
もくせい（木犀）……二三八
もゝひき（股引）……二六六
もみぢがり（紅葉狩）……二二〇
もちつき（餅搗）……二三三

せ

せみ（蟬）……一二九
せきそんこりとり（石尊垢離取）……二八七
せがき（施餓鬼）……一九二
せきぞろ（節季候）……二〇七
せつぶん（節分）……二二四
せいぼのが（歳暮賀）……二三一

す

すごろく（双六）……一四
すゐせん（水仙）……一四八
すみだがはのはな（隅田川の花）……九三
すだれ……一三一
すみよしみたうゑ（住吉御田植）……一四一
すゞみ（納涼）……一五〇
すゞみだい（納涼臺）……一五二
すゐくわ（西瓜）……一九四
すゝき（芒）……二二三
すみ（炭）……二六六
すつぽん（鼈）……二一七
すゝはき、すゝだけうり（煤掃、煤竹賣）……二二〇

（索引終）

跋

川柳と云へば作句上何の造作も無い様に思はれるが、他の一般の詩、殊に略ほ詩形を同うして居る俳句に比較して甲乙のあるべき筈は無い、狂句を川柳と誤解して居るものは兎も角、少しく古川柳を研究して、川柳の何たるを味ふたものは其の作句の甚だ容易ならざる事を認めるであらう、詩としての川柳は、人情世態を叙するに最も適すると同時に、なか〳〵其堂に上り得べきものではない、故に眞の川柳を作らんと欲するものは先づ古川柳を研究して而して後の事である、然れども之を研究するの資料に乏しい事は我も人も共に遺憾とする所である、余が友安藤幻怪坊氏は大に此點に注目し

曩に柳樽を飜刻して同好に頒ち、今又多年の苦心に成れる川柳歳事記を上梓する事となつた、氏が斯道の研究に忠實にして、併せて後進を指導するに熱心なる誠に敬服の外は無い、のみならず此冊子は斯道の先輩として一方に雄鎭たるの手腕を揮ひて編纂したもので、一度び之に依て研究を始めんか、初學の者と雖も欲する儘に古川柳の眞味を探り更に進んで新作を試みるに少なからざる便利を得て、其の斯道に貢献するの功は至つて大なるものがあるであらう、喜びの餘り聊か蕪辭を述べて後序とする。

而笑子識

大正十年十一月廿日印刷
大正十年十一月廿五日發行
昭和十年五月三十日增補發行

川柳歳事記

定價金壹円五拾錢

著者　安藤幻怪坊
發行者　東京市江戸川區小岩町二ノ二五三九　山下三郎
印刷者　東京市下谷區御徒町二丁目七八番地　石野觀山

〔成光館印刷部〕

發賣所　東京市神田區元佐久間町十番地　成光館書店
振替東京一七三〇一番
電話下谷六五七二番

不許複製

重森